

令和3年度 八重原公民館主催事業計画一覧

青少年 対象	時期・回数
子ども創作体験教室	7～8月（2回）
八重原子ども自然体験教室	7～2月（7回）
成人を祝う集い 君津中学校区（会場 調整中） 八重原中学校区（会場 調整中）	1月
成人 対象	
家庭教育学級 八重原・周南地区合同幼児家庭教育学級 （幼児の保護者向け）	7～3月（7回）
八重原地区家庭教育学級「八重の桜」 （八重原地区の小～中学生の保護者）	7～2月（8回） 随時
家庭教育関連事業	
共生のまちづくり講座	随時
ふれあい学級（高齢者学級）	7～1月（7回）
学び直し支援事業（スマホ講座）	随時
オトナの体験教室	11～12月（2回）
地域再発見講座	随時
福祉関係事業	随時
読書活動推進（かけはし文庫、Book サロン等）	随時
親子 対象	
親子米作り教室	5～12月（5回程度）
文化・広報・展示活動	
第25回八重原地区ふれあい文化祭	10/16（土）～17（日）（予定）
館報八重原	年5回（6、9、9、12、3月）
施設の管理運営、各団体・機関等との連携、協働	
施設利用の提供、修繕、連携	通 年
君津地区公民館運営審議会	5～3月
公民館利用者懇談会（利用者研修会）	9月・3月

※新型コロナウイルスの状況により、中止、変更等を行う場合があります。

八重原公民館の 活動を通して 生活に彩りを!

公民館では「新しい生活様式」にあわせた主催事業の実施や、各サークル・団体活動を行っています。昨年度は、緊急事態宣言を受け休館もあり、思うような取り組みができませんでした。今後も同様のことが考えられますが、そのような状況でも開催できる工夫や、代替の手段で事業が継続できるように準備を進めています。各主催事業の開催・募集案内は、自治会回覧やホームページ等でお知らせをします。遠くに出かけることが難しくなった今だからこそ、地域での活動を始めてみませんか？公民館は、みなさんの活動や学びをサポートいたしますので、お気軽にお問い合わせください。



今年度から八重原・周南地区の合同で幼児家庭教育学級を開催します！



米作り教室を実施しました！

リニューアルに合わせ、新コーナーの掲載も検討しています。みなさんからのご意見・提案がありましたら、八重原公民館までご連絡ください。お待ちしております！
次回の発行は9月を予定しています。お楽しみに！

リニューアルのポイント！

変更前	変更後
モノクロ印刷	オールカラー
A3サイズ2面	A4サイズ4面
6、12、2月に発行	バランスよく3カ月毎に発行（6、9、12、3月）

毎号、ご愛読いただきありがとうございます。地域の情報紙として八重原公民館が開館当初から発行を続けてきましたが、次号より大幅に紙面をリニューアルしてお届けすることになりました！

「館報 八重原」がリニューアル！



笠嶋 小川 寺沢
蛭田 菊込 吉田 矢代

職員紹介
【お世話になりました】
▼退職
館長 山口一也
▼異動
公民館主事 唐鎌 ゆう子（生涯学習交流センターへ）
主任主事 鳥沢 好史（厚生課へ）
【よろしくお願ひします】
館長 吉田 貞利
主任主事 矢代 雄一（周南公民館より）
主任主事 蛭田 正彦（建築指導課より）

編集後記
館報 八重原が次号からリニューアルします。紙面がカラーになるので、今まで以上に見やすくなると思います。私たちもどんな館報になるか楽しみにしています。地域の動きをわかりやすくお伝えしていきますので、今年度もよろしくお願ひ致します。（矢）

編集後記

前号（2月号）の「成人を祝う集い」の記事で新成人の人数を誤って記載していました。正しくは、君津中学校区245名、八重原中学校区109名です。お詫び申し上げます。

お詫び

小雀の庭に來遊ぶ
あたたかさ
（外箕輪・せごん）
まちかど川柳

BOOK サロンかけはしの紹介

公民館では、館内にある「かけはし文庫」の本を気楽に読める場を提供し、公民館を利用できる場・憩いの場・語らいの場の一つにすることを目的として『BOOK サロンかけはし』を立ち上げました！毎週月・金曜日午前9時30分～11時30分に八重原公民館小会議室で開催しています！ご興味のある方はぜひご参加ください！



※初めて参加する方は、事前に八重原公民館へお声掛けください。
※開始日時・場所は今後変更となる可能性があります。

おすすめの本の紹介

○著書 「北斗 ある殺人者の回心」 ○著者 石田 衣良

さて次はどの本を読もうかと、かけはし文庫の書棚を眺めていると、この著書のサブタイトルが目にとまった。最初の1・2ページの「端爪 北斗は誰かに抱きしめられた記憶はなく、人の体が温かいのか、冷たいのかわからない。」という書き出しに惹かれ読み進むと、「両親からの接触は、激しい痛みをともなう打撃を通じてのみ行われた」「父親の端爪至高が北斗の恐怖の源だった」と続き、両親から受けた虐待のシーンが北斗の視点でリアルに描かれる。ひたすら自分の心を殺すことで虐待に耐える。父親の死後、16歳の時里親と出会い普通の人生を歩むかと思われた。しかし、北斗が身も心も委ねる事ができた里親の死で心の支えを失った主人公に、作者は殺人者として裁かれるという運命を負わせる。この裁判が感動的に描かれ、北斗が、初めてお母さんに愛されたいと語るシーンは文字が滲んだ。（宮地ミヨ子）



※ご紹介した本は、かけはし文庫にて貸し出しをしています。